

平成30年度



学校だより 第6号

高岡市立木津小学校
平成30年10月19日
発行責任者 木越明子

チャレンジ&ありがとう



成果が見えるように

教頭 中山利男

晩秋となり、木々の葉が色付いてきました。今年の猛暑、小雨にも負けず、生長していた植物も休憩する時期を迎えました。先日、今年最後の下草刈りを終えホッとしています。来年の4月中旬まで草刈り機はお休みすることになります。

農家のあんま（長男）として、親から田んぼや山を受け継いだので、草刈りをして伸び放題の雑草を刈っているのです。雪が溶け草木が伸び始める4月に始まり、1年に3～4回も同じ土地の草刈りをしなければなりません。街から嫁に来た妻は、「どうせ冬になったら枯れるのだから、なんで草刈りなんかしてるの？」と言ってきます。枯れ始めた今の時期の草を刈っていると、私もそんな気になります。

ですが、我が家の土地のお隣さんが草刈りをしてきれいに整備されると、手入れをしていない我が家の土地が目立ってしまうのです。その上、田舎の礼儀として、うちの土地に少し入り込んで多めに草刈りをされるのです。それを見ると、何もしないわけにはいきません。学校や自治会の行事がない「ゆっくり休みたい」土日、雨が降っていない時は、草刈りに出動となるのです。

このように書いていると、「草刈りが嫌なんだろうな。」と思われるでしょうね。その通りです。「親から田んぼや山林を受け継がなきゃよかった。田んぼがない人がうらやましいな。」と思っています。

でも、草刈りをした後はとても気持ちがいいので、達成感を味わうことができます。下の写真を見てください。左の写真が草刈り前、右の写真が草刈り後の農道です。



はっきりと自分が草刈りをした成果が分かるのです。刈り終えた数日後にも時々見に行くこともあります。仕事の成果を再確認するために。この気持ちよさを感じるために草刈りをしていると言っても過言ではありません。

子供たちも同じだと思います。学習や仕事の成果が分かるとうれしいし、次に向けてのやる気が出てくることでしょう。子供たちの取組の中には、草刈りと違って、はっきりと変化がないことが多いので、私たち教師は、子供たちに成果が見えるようにしてやらなければなりません。

子供たちの学習や活動をよく見て、細かな変化を捉え、よくなったことをほめたり、努力を認めたりして、成果が見えるようにしていきたいと思います。そして、子供たちと一緒に喜びたいです。

間近に迫った学習発表会では、子供たちの練習の成果が見られます。子供たちの成長を大いにほめてあげましょう。